

春季彼岸会

平成29年3月18日(土)に、太陽の塔桜ヶ丘で春季彼岸会が厳修されました。当日は、天候にも恵まれ多くの会員様にご参加くださいました。法要に先立って、責任者より「太陽の塔桜ヶ丘がもうすぐ2年をむかえ、多くの会員様をむかえることができ、ことに感謝致します。今後とも永らく会員様に安心して利用していただける施設となるようスタッフ一同一丸となつて、邁進していきます。」と、挨拶申し上げます。その後、浄土真宗の儀礼に基づき太陽の会所属の僧侶が読経法話を務めました。法話では、「お彼岸って何?」という単純な疑問に答える内容で会員の皆様へお話しいただきました。「お釈迦様が約



2500年前、煩惱渦巻く今生の世界において幸せに生きる方法として悟りを開かれて、限りある苦悩の世界から離れて求められるのが彼岸です。浄土真宗をはじめとする浄土教の教えでは、私たちが今生で目指すべき悟りの世界が彼岸。すなわち阿弥陀様の西方極楽浄土をいいます。お釈迦様は今生での悟りはそう簡単なことではないと、経として極楽浄土へと進む方法を今の私たちに残されました。普段日常生活に追われているからこそ、ご家族と共に仏様に手を合わすこのお彼岸を大事にしていきたい」とお念仏の尊いご縁を感謝する私たちの仏教に対する心を膨らませていただきました。

今回の春季彼岸会から、午前と午後の二部制での開催になりました。多くの会員様をお迎え出来ることは、大変ありがとうございました。今後とも仏事の「ご参加心よりお待ちしております。

太陽の塔 桜まつり

4月2日(日)に桜まつりが開催されました。今年で第2回目になる「太陽の塔 桜まつり」では、おいしい屋台が出店され、おでんやカレーライスなど来ていただいた方の食欲を刺激する香りにつつまれました。新鮮な野菜の販売では多くの方が集まり季節の野菜の鮮度に感心していただきました。また、子供神楽や太鼓の演奏は、多くの大人たちの歓声をあびて穏やかな天候の中、日頃の練習成果をいかんなく発揮して集まった方を楽しませてくれました。今後、会員様、地域の方に楽しんでいただける行事を開催したいと思えます。



花まつり

毎年4月8日は、お釈迦様の誕生をお祝いして多くの寺院で花まつりの行事が行われます。お釈迦様の生まれたインドでは、仏像のまわりを周りながら礼拝する行道や神輿に仏像を乗せて、行列を組んで練り歩くというような行事が行われています。日本では、お釈迦様が誕生された姿の仏像を花見堂と呼ばれるお堂に祀り、甘茶をかける作法で、お釈迦様のご誕生をお祝いします。甘茶をかける由来は、お釈迦様が誕生された時、龍神が喜び雨を降らしたという伝説に由来しています。本来は、香水という香木などで煮出した水を用いますが、現在は甘茶ツルを煮出したものを多くの寺院で使用しています。甘茶ツルで赤ちゃんの頭をこすると健やかに成長するといふ伝承から広く使われるようになったといわれています。毎年、太陽の会でも一階受付の隣にお釈迦様をお祀りしていますので、気づかれた方は是非一度、甘茶をかけてお参りしていただきたいと思えます。



仏教由来の言葉「油断」

「油断」とは、気持ちがゆるんで、うっかりすることなどをいいます。とある経には、ある王様が家臣に油の一杯入った鉢を持たせて一滴でもこぼしたら命を絶つと言い、後ろから刀を持った者をつけて行かせた。そのことが「油断」の語源になったと言われています。

他には、行灯の油の準備を滞ってしまい、明かりが消え、夜中に敵にやられてしまったという俗説もあります。

油断大敵という言葉の通り、ちよつとした心のゆるみから、大きな失敗や事故に繋がったりします。それは、仕事、家庭、健康、その他、多くの事柄に関して大切な心構えになります。あのウォルト・ディズニ―は、「必死に戦っている時よりも、上手くいつている時の方が心配だ。順調なときは、突然何か台無しになるのでは、と気になつて仕方がない」と話しています。人生日々の戦いは、万事慎重を重ねて、油断なき努力が成功をおさめる秘訣かもしれません。

「お花見」の起源

お花見の起源はとても古く、特に桜は神の鎮まる場所とされ、供え物をして、豊作を祈り、宴を開いていたようです。古来「お花見」は、萩の花から始まり奈良時代には中国から来た梅の花のお花見が盛んでした。平安時代になると花と言えば桜というように「古今和歌集」や「源氏物語」でも桜やその宴の様子が書かれています。「花さそふ比良の山風ふきにけり漕ぎ行く舟の跡みゆるまで」「新古今和歌集より」これは、琵琶湖一面に桜の花弁が散り敷いている上を漕ぐ舟の跡には、花弁が無い様子を描写し、世の無常を舟の跡には、何も残っていないと喩えています。「お花見」は、まさに散りゆくものを美しいと思える日本人の奥床しき心に通じる文化なのです。明治以降に広まったソメイヨシノが寿命をむかえ各地で桜の入れ替えが行われているようですが、未永く桜を楽しむ文化が大切にされることを願います。



正念の徳・得「コーナー」

トクトク

▽不実のころ

「まこと」の心とはどんな心であろうか。この心を知るためには、その反対の「不実の心」を知り、それを比較すれば分かり易いから「不実の心」について考えてみる。「不実の心」とは、自分に都合がよければくつつく、自分に都合が悪くなればはなれる心」をいうのである。善悪によってかわる心が「不実の心」である。例えば、お金持ちになれば、親類が多くなり、人の出入りが激しくなるものである。しかし、人々にもてはやされていた富豪も一端、貧乏すれば人の出入りもばつたりとまり、親類さえもよりつかなくなるものである。さわらぬ神にたたりなし、とよりつかなくなるものである。このように自分の都合の善い時には、くつつき都合が悪くなれば離れてしまうような心の持ち主を力にし、たのみにし、あてにしている幸福な生活ができるでしょうか。自己の心を顧みて考えてみると「不実の心」は他人の心ではなかった。この自分こそ、不実の頭であり、冷血の極みである。他人の心が不実だと思って、恨んだり、攻撃し

ていたが、この自分の心こそ、毎日善悪によつて変化する「不実の心」こうなれば人の心も、わが心もあてにならない心であるのではないか、今こそ親鸞聖人が「煩惱具足の凡夫、火宅無常の世界はよろずのこと、みなもて、そらごと、たわごと、まことあることなし」と仰せられし、み言葉が身にしてみても味あわされるのではないでしょうか。次回は「真実のころ」です。

太陽の会僧侶 正念

樹木葬おとめ座オーブン

太陽の塔では、故人のお骨をお送りいただくという送骨の方法でも樹木葬による永代供養を受け付けています。お墓の管理を残されたご家族の負担にしたくない、環境の良い自然の中で眠りたいなど、樹木葬を選ばれる方々の様々な思いに私たちは応えてきました。供養に関することなら実績豊富な太陽の塔にご相談ください。



超個体とは

超個体とは、多数の個体から形成されるで一つの個体であるかのように振る舞う生物の集団のことです。例えば、アリは集団での行動を基盤としています。一匹での行動は、力を発揮できず、集団の中でお互いの役割をきめて、集団の中でその役割をまっとうして命を終えていきます。これによって集団は、より大きい集団へと成長します。

通常、同種で構成される個体群やコロニーをさしますが、異種集団を超個体と見なすこともあります。

私達も細胞レベルでいうと、この超個体の存在であり、私たちの家族、住んでいる地域、会社、社会にいたるまでが、この超個体という考え方にあてはまります。戦時中や、災害時など、誰かの為に自らの命を顧みず他者を助けたりするのは、超個体社会において、自分がその社会の一員だと感じていけば、自然に利他的な行動をとるものです。これは、宗教云々よりも周りと自分の関係の認識が大きいと思います。

これで安心ー終活を今日から始める方法

皆さまこんにちは。エンディングノート普及協会代表・日本終活サポート協会理事の赤川なおみです。終活の悩みを解決するための終活講座、終活相談、終活井戸端会議を行っております。

前回の「終活初めの一步」は「終活箱の見直し」でした。見直してみると、情報が古くなっていたり、気持ちが変わっていたりすることはありませんでしたか。今回も、就活を今日から始めるためのワンポイントをお伝えします。

○お薬手帳の活用

今日から始める就活では、「終活箱の活用」をご提案していますが、もう一つすぐに始められるものとして「お薬手帳の活用」をおすすめしています。

お薬手帳は皆さまお持ちですか。2016年4月から、お薬手帳を持っていない場合には支払い金額が少し高くなっています。ただ、お薬手帳は病院・薬局に行く時だけしか使わないのではないのでしょうか。

○お薬手帳に必要事項を記入

まずは、ご自身のお薬手帳を開いてみてください。最初又は最後に個人の情報を記入するページがあります。皆さんはこのページに記入をしていますか。自分の情報や連絡先の他、余白には就活箱の置き場所や自分の希望、伝えたい情報をメモしておきましょう。お薬手帳は、使い終わると新しいものになりますので、定期的に見直し書き換えることができます。エンディングノートの練習としても始めやすいのではないのでしょうか。

○終活始めの第一歩

緊急時、災害時、ご本人が服用しているお薬の情報が大切である事は、昨今の震災の経験から多くの方が発信されています。この手帳に少し書き足して、まずはエンディングノートの練習を始めましょう。わからないことがある方、ご自身に必要な終活を見極めたい方は、終活相談会をご利用ください。



墓じまい・改葬について②

墓じまいとは、様々な理由からお墓の管理が出来なくなった場合に今のお墓を処分する事で、最近メディアにも多数取り上げられています。

お墓の継承

お墓が遠方のため、お子さんが墓所を継いでくれるか不安。
お墓参りなどで、子供たちの負担にならないようにしたい。

子供などお墓を継承する人がいないため、永代供養墓への改葬や海洋葬を検討している。

…次回に続く…

太陽の会 5月～9月祭祀予定

○親鸞聖人降誕会法要及び合同供養祭

開催日 5月20日(土) 10時より

○合同供養祭及び法座

開催日 6月17日(土) 10時より

○孟蘭盆会

開催日 8月12日(土) 10時より

○秋季彼岸会・合同供養祭

開催日 9月23日(土) 10時より

